

第2回理事会開催



1月21日東京都新宿区の神楽坂「加賀」2階会議室にて第2回理事会を開催し、中野憲一会長を議長に、次の議案が審議された。

議案「平成23年度事業計画案」、「平成23年度収支予算案」、「定款の変更案」の3件については満場一致で可決し、各案を会員に送るとともに

3月10日の社員総会にて諮ることとした。なお、議案の「サウナの普及啓発事業」については4面に事業活動の記事を掲載。その他、今年の全国総会は5月27日宮崎市で開催する旨が了承された。また、今年の健康士講義については3月9日（水）名古屋市、10日（木）大阪市、23日（水）広島市、24日（木）福岡市にて、つくば国際大学星虎男教授を講師に開講することとし、受講生には別途案内する。

平成23年度予算総会は3月10日（木）13時30分からニュージャパン観光(株)（大阪市）にて開催予定。2月28日までに^①出欠ハガキの返信をお願いします。問い合わせ：☎03-5275-1541

東京都協会 勉強会

東京都協会（林浩美会長）は2月15日（火）「第55回勉強会・施設見学会」を、昨夏リニューアルを行った「サウナ&カプセルホテルレインボー新小岩店」にて開催し、48名が参加しました。

今回は、今話題になっている「綿花の高騰に関連して繊維製品の今後の価格動向」などについて(株)旅館ランドリーの桑田俊宏氏に、また「設備メーカーから見た温浴業界の現状」と題して(株)メトスの佐野貴司氏に、それぞれ講演をしていただきました。

講演の最後には質疑応答を行い、切実な問題だ



けに参加者からたくさんの質問が出ていました。

賛助会員のプレゼンテーションとして(株)千代田より新商品の「消臭剤」について、大塚製薬(株)より新製品の大豆炭酸飲料「ソイッシュ」の説明をしていただきました。

終了後、賛助会員も参加して懇親会を開催し、
レインボー新小岩店自慢の料理で和気あいあいと
情報交換などで話が弾みました。

神奈川県協会
観桜コンペのご案内

毎年好例の観桜コンペを開催いたします。全国からの参加も歓迎します。

日時：4月5日（火）9時フロント集合

場所：大厚木カントリー倶楽部「桜コース」

終了後は東名厚木健康センターにて表彰式・懇親会を開催。

問い合わせ：03-5275-1541

各地で新年会を開催



(社)日本サウナ・
スパ協会は1月21日
理事会終了後、評議
員および賛助会員の
参加で賀詞交換会を
開催。また、東京都
協会は1月19日に東
京ドームホテルに
て、関西協会は1月
26日サウナ&スパ大
東洋にて、神奈川県
協会は1月26日湘南
シーサイドCCでブル

フコンペの後、箱根ホテル小涌園にて、埼玉県協会は2月8日割烹旅館東山にて、それぞれ新年会を開催、初顔合わせを行い新年の抱負を交わした。

平成23年度 日本政策金融公庫(生活衛生貸付) 予算案の概要

日本政策金融公庫は2月9日（水）、生衛会館（東京）にて平成23年度の生活衛生資金貸付の予算案等に関する説明会を開催した。

まず中村吉夫常務取締役の挨拶の後、生活衛生関係営業対策予算案の概要、生活衛生資金貸付の予算案の概要の説明、生活衛生関係営業の景気動向のデータ説明等が行われた。

来年度の貸付規模は1200億円（22年度1400億円）で、サウナ・スパ営業関連は以下のとおり。

- ・サウナ営業設備資金貸付 2億円以内。うちレジオネラ症対策で、施設または設備の改善は7200万円以下
- ・生活衛生改善貸付 1500万円以内

携帯用QRコード



SAUNA・SPA 新聞へのご意見・ご感想をお聞かせください。協会ホームページでもご覧になれます。<http://www.sauna.or.jp/>

改良品登場

香り約3倍

使用量半分



デモンストレーション承っております (什器類も貸し出し致します) お気軽にご連絡下さい

酒風呂、極まる。

10L

¥9,800

本物の酒風呂『菊正宗 美人酒風呂』

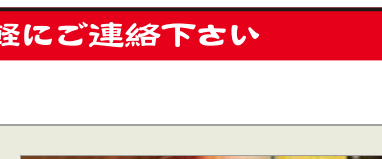
日本酒ブランドの雄“菊正宗”が生み出した、「本物感」たっぷりの入浴剤です。

菊正宗が織りなす豊かな日本酒の香りと、化粧品にも使用されている日本酒の『保湿成分』による、しっとりとした肌の仕上がりが大変好評を頂いております。

他店との差別化にぜひオススメさせて頂きたい商品です。

販売用もごさいます







ニシカワヤ株式会社

〒453-0839 愛知県名古屋市中村区長篠町7丁目65-1

TEL 052-412-3059 FAX 052-411-8551

 ホームページ
 www.nishikawayaya.co.jp

 Eメール
 info@nishikawayaya.co.jp

献血・募金 日本赤十字社の血液事業を応援しましょう。

世界最大のネットワークを持って活動する人道機関「赤十字」。(社)日本サウナ・スパ協会は日本赤十字社の血液事業のお役に立ちたいと考えています。みなさんも自分のできる形で血液事業を応援しましょう。



若年者層の献血者数が10年前より約45%減少しています 若い世代の方々のご理解とご協力をお願いいたします

日本赤十字社 血液事業本部長 西本 至

日頃から日本赤十字社の血液事業に対し深いご理解とご協力を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

お蔭様をもちまして、平成22年度は延べ約530万人の方々に献血にご協力いただき、輸血を必要とする約120万人の患者さんに安定した輸血用血液の供給を行うことができました。

しかしながら、輸血を必要とする患者さんの約85%以上が50歳以上の方々である一方

で、若年層(10代・20代)の献血者数は10年前より約45%減少しているという現状があります。今後ますます少子高齢化が進むわが国においては、献血可能人口の減少に伴い、将来の献血基盤となる若年層献血の確保に大きな影響が出ることが懸念されます。

こうしたことから、日本赤十字社では若い世代の方々を中心に、広く国民の皆様に献血へのご理解とご協力を求めているよう努めて

いるところであり、全国統一の献血推進キャンペーンとして「いのちと献血俳句コンテスト」や「LOVE in Action プロジェクト」「はたちの献血」などを実施しております。

今後も安全な輸血用血液を安定的に供給できるよう努めてまいり所存でございますので、引き続きご支援ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

献血キャンペーン開催中! 感動を呼ぶ 石川選手と真彩ちゃんの ほのぼのCM



若い世代の献血離れが深刻な問題となりつつあり、日本赤十字社はさまざまなキャンペーンを展開して若い世代に献血の大切さを伝えています。中でも時代を代表するキャラクターが自分の言葉で献血を呼びかける「はたちの献血」キャンペーンは、冬期における血液不足解消と若年層をはじ

めとする献血協力の訴求、また献血思想の普及啓蒙のために毎年実施されています。今年も1月1日から2月28日まで全国で行われています。

平成22年のキャンペーンに続き、キャラクターはプロゴルファーの石川遼選手。石川選手と共演するのは、2008年2月、5才の時に急性リンパ性白血病を患った峰山真彩ちゃん(8歳)です。闘病中には大量の抗がん剤を使うとともに大量の血小板輸血が必要とされました。1年間ほぼ毎日輸血を受け、多くの方の献血のおかげで輸血ができた真彩ちゃんは元気を取り戻しました。

石川選手が「ほくらも、いのちの、助けになれる」と呼びかけるこのテレビCMの中で、石川選手が「真彩ちゃんが一番大切なものは？」とたずね、真彩ちゃんの口から「自分のいのち」という言葉が返ってくる場面があります。まさか8歳の女の子の口からそんな重たい言葉が出るとは見る者も予想しておらず、思わず画面に引き込まれます。

ほのぼのとした二人の自然な会話の中から命の重さや献血の大切さが伝わるこのCMは、老若男女を問わず感動の輪を広げ話題となっています。

キャンペーンソング「Hey和」を歌っているの

は幅広い世代から人気があるフォークデュオの「ゆず」の二人。優しさが溢れた作詞と、希望が沸いてくる軽やかなメロディが、今年のキャンペーンをより温かいメッセージにしてくれています。

テレビCMは「はたちの献血」キャンペーンのHPでもご覧いただけます。またキャンペーン期間中は、石川選手のイラスト入りオリジナルステッカーが全国の献血会場でもらえますので、ぜひ足をお運びください。

赤十字血液センターで 日々活躍する贈呈車

(社)日本サウナ・スパ協会では各加盟店に日本赤十字社の募金箱を設置し、お客様に募金を呼びかけています。いただいた募金は全国総会開催地の日本赤十字社の各血液センターに寄付し、献血関連車両として全国総会が行われる開催地の日本赤十字社の血液





「ロックフェイスサウナ
イズネス」

サウナの新潮流はロウリュウサウナへ。
圧倒的な熱波がサウナ新時代の流れを、
人の流れを生み出します。

コンパクトながら熱波は強力。
デザイン性に優れた省スペース型。



ik i サウナ



ほくらも、いのちの、助けになれる。
石川 遼

はたちの献血

400mL・成分献血にご協力下さい。 山 エイズウイルスなど、感染症の疑いがある方は、献血に献血しないで下さい。 主催：厚生労働省・都道府県・日本赤十字社 協賛：社団法人 日本民間放送連盟・社団法人 日本民営鉄道協会・一般社団法人 日本ユニセフ協会

日本赤十字社 Japanese Red Cross Society 人間を救うのは、人間だ。 Together for humanity

LOVE in Action プロジェクト・寄付者

センターに贈呈してきました。

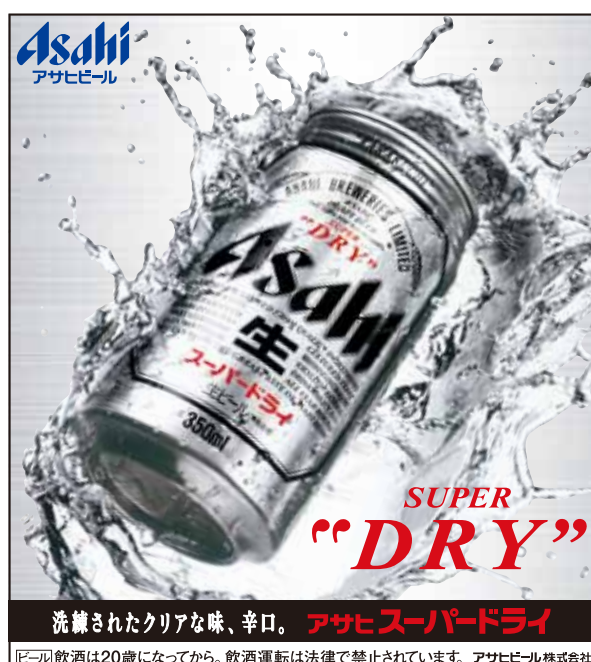
これまで14台贈呈してきた中、昨年贈呈した日産NOTEは東京都江東区にある東京都赤十字血液センターの医薬情報担当者（MR）落合永さんが毎日自ら運転し、都内千代田区と港区の病院を回っているということです。昨年6月以来、月に延べ600キロほど走行しているといえますから、いかに活用されているかがうかがえます。医療機関に日々足を運ぶ医薬情報担当者というのはどのような業務なのでしょう、落合さんの毎日の仕事について話をうかがいました。

血液を正しく用いていただくため、千代田区と港区の病院を訪問しています

東京赤十字血液センター
医薬情報担当者
落合 永

私ども医薬情報担当者（MR）は日々管内の医療機関に出向き、医師や薬剤師、臨床検査技師など、医療従事者の方々に血液製剤に関する最新情報を提供し、また各病院や医療機関へ血液製剤が供給された後のフォローアップを行うことを主な業務としています。

血液製剤の使われ方は日進月歩で変化しており、診療科別に考えるとその情報は多岐に渡ります。貴重な血液を正しく安全に用いていただくためには、医療の現場にいらっしゃる方々に最新の情報を知っていただく必要があります。私の担当エリアは都内の千代田区と港区で、両区内の病院を訪問していますが、情報提供のためにさまざまな機材や資料を持参することもあり、贈呈いただいた車両が非常に役立っている次第です。（社）日本サウナ・スパ協会さんの事務局がある千代田区は私の管轄区域でもあり、車両にいつそうの愛着を感じます。誠にありがとうございました。

Asahi アサヒビール

Asahi 生 スーパードライ 350ml

SUPER "DRY"

洗練されたクリアな味、辛口。アサヒスーパードライ

ビール 飲酒は20歳になってから。飲酒運転は法律で禁止されています。アサヒビール株式会社



KIRIN

ビールは、
麦[※]100%
の時代へ。

麦[※]100%は、
一番搾り

※麦を原料とした「麦芽」を指しています。

テントサウナin みゆき野映画祭 雪山でテントサウナが大人気!

長野県斑尾高原の雪山を舞台に北欧の短編映画を上映する「みゆき野映画祭」が、2月11、12の両日開催された。雪で作ったスクリーンに雪で作った客席という幻想的なスノーシアターを特徴とし、北欧の文化紹介も兼ねたこのイベントは今年で3年目。(社)日本サウナ・スパ協会はフィンランド文化であるサウナの素晴らしさを広く知ってもらうために、テントサウナを設営。雪の中だけにテントサウナは人気を博し、両日で100名を超える体験者がサウナを楽しんだ。

汗をかきながら、 極寒のテントサウナ設営

テントサウナは2年前に帯広でお披露目され、地元の放送局などの取材を通して全国紹介されたことは記憶に新しい。しかしそれは初夏のこと。今回は2メートルほども積雪のある斑尾高原に立てるとあって、協会とテントサウナを設計した㈱メトスは設営に向け、映画祭事務局と綿密な打ち合わせを重ねた。それでも自然相手に何が起きるかわからない。未知の領域を抱え、東京と名古屋からボランティア精神で参加した協会関係者13名は、引き締まった思いで斑尾入りした。

テントサウナの設営場所は映画祭が開催されるスノーシアターのエントランスにあった。あたりは2m近く根雪が積もっているが、映画祭ボランティアスタッフの協力により、設営場所だけは雪が深く掘り下げられていた。作業は残っていた30cmほどの深さの除雪から始まった。

図面を見ながら協力し合い5時間後には、テントサウナが立ち上がった。作業のかたわらつき火を始め、種火を作っていたものの、薪に火が着くまでには時間を要し、テント内が50°になったころにはあたりはすっかり暮れ、外気は-6度。

しかしずっと動きっぱなしのため、寒さを感じるひまもなかった。

本来サウナは裸で入るものだが、厚着している雪山で服を脱ぐのはめんどくさい。「靴だけ抜けば大丈夫」と声をかけると気楽に入ってくれる。サウナ内ではスタッフがさりげなくサウナの話をし、雪のロウリュで室内の温度をコントロールする。テントサウナ来訪者は暖を取りながら、サウナの魅力を知り、ついつい長居をしてしまうわけだ。

テントサウナ2日目は、朝から粉雪が舞っていた。スノーシアターは午後6時からだが、せっかく設営したテントサウナを一人でも多くの方に体験してもらいたいと、朝9時には火を入れ、午前中には温めて来訪者を待った。興味津々のボランティアの若者たちが休憩時間に訪れては温まっていく。映画作りのワークショップに参加していた小学生が団体でテントサウナに入って大喜び。先生が呼びに来てしぶしぶ出てきた子供たちに、「サウナ、どう？」と声をかけると「大すきー！」と両手を上げた。

テントサウナは斑尾の山にすっかり馴染み、その後も訪れる人は途切れない。夕方7時、粉雪は吹雪きになり、「みゆき野」映画祭はやむなく

途中で幕となった。それでもテントでは10人ほどが楽しそうに語り、ロウリュを楽しんでいる。新しい人が来ると、前からいる人が席を立つといった具合で自然と秩序も生まれてきた。テントサウナを訪れる人も、また迎える協会スタッフも、改めてサウナの魅力を満喫しつつ吹雪の夜は更けていった。



森に響き渡る開幕の声

11日夕方6時、映画祭のオープニングセレモニーがスノーシアターで行われた。スウェーデン大使夫妻を始め北欧の大使館関係者、外国からの来賓、日本の映画監督など参列者の名前が呼ばれ、一列にスクリーンの前に立つ。しばしの静寂の後、主催団体代表の橋本晴子氏が声を発した。「この場で長い挨拶はいたしません。皆様の“オープン”という掛け声で、このシアターはオープンします。それでは皆様一斉にー！」。両手を上げると参加者全員が叫んだ。「オープン！」。みゆき野の森に声が響きわたり、映画祭は幕を開けた。



北欧の映画文化を日本にも根付かせたい

屋内会場に場を移してレセプションが開催され、ボランティアをはじめ関係者が一堂に集う。地元シェフとフィンランド人シェフによる長野産のジビエ料理は予想以上に美味で、参加者は、熊やカモシカ、猪の肉に舌鼓を打った。一段落して、日本サウナ・スパ協会の紹介、中野憲一会長の挨拶の後、この映画祭に情熱を傾ける橋本氏と実行委員会の木鋪智史氏がマイクの前に立ち、関係者各位に感謝の気持ちを伝えた。

「北欧の子供たちは映画から自然の大切さ、自分の故郷の素晴らしさなど、さまざまなことを学びます。日本にもそういった文化を根付かせたいとの思いから、開催し始めて3回目を迎えました。ここにいたるまでに、たくさんの方々に力をお借りしました。来る日も来る日も雪と戦ってシアターを作ってくださった方々。その人たちのおかげで今年もシアターをオープンすることができました。本当にありがとうございます……」

声を詰ませつつの挨拶。参列者一人一人の胸に、熱い思いが伝わってきた。



※設営スタッフ (中野憲一、米田行孝、小野保行、渡辺孝、山崎栄太郎、坂本右文、吉川孝一、小出徹、笹原稔、佐野貴司、上野庄三郎、若林幹夫、山本水絵、他にボランティア3名。山崎明氏、上田岳義氏) 協賛をいただきましたキリンビール㈱、アサヒビール㈱、㈱つかもと各社、ご協力を賜りました関係各位に御礼申し上げます。